

の貸借關係の平均、米取引等商業や經濟に關する多くの叙述をなして居る。

たゞ氏には Legal System of Old Japan (Green Bag, Vol. IV, p. 403-411, 478-484, Boston, 1892) と言ふ論文があるが、前述の緒論第四節は、此論文から採られたものである。

## 紹介

### ● 南北朝時代史 文學博士 田中義成著

一等繕寫生として正院修史局に出任せられて以來約四十五年間、専ら修史事業に身を委ね、傍ら文科大學教授として學生の指導に力を竭された故文學博士田中義成先生は、國史中特に中世史に通曉せられた様であつたが、今その大學に於ける講義手控を主とし、その缺逸する所は親しく講筵に侍したる人々の手録を以て補綴して出版せられたものが本書である。第一章「時代の名稱」以下第

七十五章「南朝皇胤の末路」に至るまで、南北朝時代に起つた政治事實を、極めて簡粗の中に細大漏す事なく収録されたものであつて、全篇殆んど獨創の論斷に満ちて居る。殊に南北兩朝の正閏問題に關して下されたる事實を事實としての判斷は、千古不易の大論定であり、南朝が賀名生又は金剛山の一隅に籠居しながら絶えずよく東北地方及び九州地方との聯絡を保ちて、北朝の虛を突く事に成功せられし一大偉策は、准后北畠親房の計畫する所であつて、武家としての第一人者たる尊氏をして、終に南帝を如何にもする能はざらしめたものは、實に親房の全國的なる作戰のためであるにせられた點や、足利直義を以て、南北合一を試みた最初の主張者であると言はれた點は、何人も異論を挿む餘地のない斷定であらう。一々の史料を註記せられた事は、本書が決して獨斷的の史論を含んで居ない事を明かにしたものである。菊版二百八十八頁、隨所に數葉のコロタイプ版を挿む。

(定價二、五〇、明治書院發行)

## ●元祿享保時經濟思想の研究

文學士 中村孝也著

著者が往年、帝國學士院の推薦に基き、東照宮三百年祭記念會の研究補助費を受けて研究された、近世經濟事情の研究報告中、印刷の困難少き一卷に、多少の修正を施して公刊せられたものである。從來の經濟史を稱するもの、多くが、經濟事實の歴史であるか、經濟學史であつたに對して、本書は當時の經濟思想を、研究の對象としたものである事は、本書を紹介する誰もが、必ず特記すべき事であるだらう、本書の結構組織に關しては、著者の言に従へば、形式上と内容上の兩方面から考案して組立て、ある。形式方面より見るならば、第一章の序論に始り、第二章に於て經濟と政治と道德との關係を見て總じて武家階級本位の經濟政策論たりと言つて居り、この第二章を以て内容上の概論に充て、且つ以下數章の結論として居る。第三章以下は、其内容に於ては、前二章に論及したる事柄の論證であつて、其形式上は之を經濟に關する根本概念、生産論、交換論、分配論、消費論、財

政論の諸項に分ち、以て前段の概論に對する各論を試みて居る。其章節の立て方を一見してさへ、如何に本書が新しい意義を有する研究であるかを窺知する事が出来るであらう。而して何れも當時の經濟學者の所説を可なり親切に摘録してある事は、經濟學者の著書を手にし得ぬものにも、よく其所依を知る事が出来て便利であらう。

(菊版四五八頁、定價三、七〇、國民文化研究會發行)

〔以上中村〕

## ●現代歐洲政治及社會史 渡邊幾治郎譯

世界大戰後公刊せられたる一般史としては好著の評あるジ・エス・シャピロ氏の著書 *Modern and Contemporary European History* が、渡邊氏の平明流暢なる筆を以て邦文に譯述せられしことは、寔に讀書界の爲に慶賀すべき事なりとす。本書は筆を十八世紀末の歐洲社會狀勢に起こし、世界戰爭の終結に及び居り、章を重ねる。こゝ二十七、題名の示す如く現代歐洲各國の政治界及び社會生活の實相を説き、能く巨細の點に互り而も叙述簡約を旨とせるは、鍊熟せる著者の手腕を窺ふに足れり。譯文は所謂